

ぎんれい句会

平成二十九年二月

春おそく鳥どち雨に濡れて飛ぶ

主宰 細野恵久 福祉三期

夜神楽の一夜里神農離れ

増田和子 食文一期

庭抜ける風まだ尖る二月かな

改正節夫 国際三期

節分や泣き止まぬ子に鬼面取る

藤井秀重 生環四期

かく老いし百面相や初鏡

三枝邦光 美工五期

冬温し渡船場にある猫溜り

國永靖子 音文六期

源流の幽かな流れ山眠る

猿橋二三雄 福祉八期

望みなきにしも非ずラガートライ

加藤善巳 美工八期

笛入りて詞章色めく初謡

太田 實 国際十期

御礼絵馬日毎に増えて春立ちぬ

今崎良平 音文十四期

落の薑珈琲は濃く熱くして

大下絹子 国際十五期

庭抜ける風まだ尖る二月かな

中村建生 国際十五期

小半時待ちて漁師の牡蛎の店

藤本武子 国際十五期

風花や神話の島の謎めきて

山下 進 国際十五期

鱒大根先ず一献を友に差す

許斐國照 食文十五期

薄氷や雀の糞を閉じ込めて

小淵政子 健福十六期

一瞬を鷹掠めるや囲む森

水島麗子 国際十六期

侘助の開きすぎずにいる力

兼清久子 健福十七期

千蒲団夢の続きを円やかに

宮本公子 健福十七期

BSIの雪原真二つ煙引いて

沖本无辺子 国際十七期

寒紅をひき税務課に用のあり

香春早苗 国際十七期

春近し農具修理の鍛冶の音

仲田愼輔 国際十七期

足ぶみし霜焼け摩る新聞屋

中村富美子 国際十七期

干竿に雨滴きらめく四温かな

江間れい子 園芸十七期

変わりなきことは幸せ春立ちぬ

小栗恭子 健福十八期

水仙や風と潮騒聞き分けて

潮江敏弘 健福十八期

孫触れる耳朶二つ冴返る

野見山剛 健福十八期

春立つや娘いぬ部屋開け放つ

大山吉春 国際十八期

酒造り甘き湯気立つ冬の朝

今井義和 美工二十期

ぎんれい句会について

ぎんれい句会は、シルバーカレッジ第一期生として在学中だった俳誌「ぐろっけ」主宰品川鈴子先生に俳句の手ほどきを受けた同期生が卒業後すぐ平成九年四月に立上げた句会で、その後次々に同窓の俳句愛好者を加えて今日まで月一回の句会を続けてきました。

鈴子先生には引き続きご指導を賜りましたが、平成十五年からは第三期生で「ぐろっけ」同人会長の細野恵久先輩が代って指導を引き受けておられます。

その間、平成十八年に第百回記念の、また平成二十六年には第百回記念の合同句集を発売、句会の足どりをささやかながら形として残しました。

なお今回ご紹介する作品は第二百三十四回の句会からの一人一句です。